



景観フォーラムの様子

り、未来を担う子どもたちへ美しい景観を遺さなければとの想いを持った市民が育ってまいりました。その多くの市民で構成された「福生まちづくり景観会議」では、福生の景観、美しい町並みとはどのようなものか、どう在るべきかなど、熱心な議論がなされ、素晴らしい「景観市民プラン」としてまとめられました。そして、まちづくり景観基本計画、まちづくり景観条例へと結実しております。

多摩川や玉川上水、緑等の自然、旧街道沿いに残る蔵などの景観資源を守り育て、そして、福生の景観に新たな魅力を付加する試みは、市民、事業者が主体となり、協働によって成し得るものであります。地道な活動に取り組みされている市民の皆さんに心から敬意を表するものであります。

ふれあいと愛情のあるまち

次に、まちづくりには、まちを愛する心が必要であるとする「ふれあいと愛情のあるまち」ですが、私は、ま

ちづくりというものは「人育て」であり、その人々による「まち育て」であるといったことを申し上げてまいりました。

市民、市民活動団体の活動支援、協働の拠点としての輝き市民サポートセンターの設置は、その開設から市民の方々のご意見をいただき、まさに市民との協働で環境整備をさせていた

多摩地域を広くつなぐまち

次に、五つ目の目標「多摩地域を広くつなぐまち」でございますが、事務事業の広域的な共同処理としての一部事務組合は、福生病院、西多摩衛生組合、瑞穂斎場など、市町村間の連携のもと順調な取り組みがされております。

また、西多摩広域行政圏協議会では、戸籍証明等の広域交付や図書館の広域利用が推進され、他の公共施設においても、広域利用の検討が進められるなど、連携強化が図られております。

しかし、市民の日常生活圏は一層の広がりを見せており、このため、立川市周辺自治体との新しい連携や多摩川流域自治体との連携など、より広域的な観点から対応すべき行政課題に対し、近隣自治体との連携、協力、調整に今後とも取り組

んでいく必要があると考えております。

横田基地について

福生市の行財政運営、まちづくりにとって、横田基地の存在を抜きにしては語ることができません。私は、「基地は無いことが望ましい。しかし国策として存在する以上容認するしかないが、存在による迷惑については、国、国民によって十分な配慮をしていただきたい」と、常々申し上げてまいりました。

基地があることによる不安感、市東側の閉塞感など、市民生活、まちづくりにとって大きな障害とも言える横田基地は、米軍再編問題や軍民共用化問題など、その態様を大きく変化させようとしております。

現在、騒音被害は低下しているものの、基地がある限り、そして滑走路がある限り飛行機は飛び続け、基地周辺住民はその被害を受けるわけですから、国策と言えども、その態様の変化についての十分な情報提供がなされ、基地周辺住民の意思が反映されなければならぬことは言うまでもありません。

横田基地関係で思い出しますことは、夜間連続離着陸訓練、NLPで、平成5年から硫黄島の訓練が始まり、平成12年の2月と9月の訓練では硫黄島が使用されず、横田基地をはじめと

する三沢、厚木、岩国の各基地で行われ、基地周辺住民は大変な騒音被害を受けました。

神奈川県大和市等からの呼び掛けで、「NLP実施4基地関係市長意見交換会」が行われ、全ての訓練を硫黄島で行うよう要請し、これにより平成13年2月の訓練は硫黄島で全面実施され、横田基地等でのNLPは中止となりました。その後の訓練も実施されておりません。しかし、硫黄島はあくまでも暫定施設であり、恒久施設の設置について、現在も国に要請しているところでございます。

軍民共用の問題は、日米で意見の一致を見ず、頓挫しているとのことですが、どのくらい騒音があるか、ターミナルがどこにできるか等によって、市及び市民への影響が大きく変わってまいります。国からの情報が全く出されない状況や近隣市町との関係のなかで、今日まで慎重に対応してまいりました。

国防を考える国民の立場と、生活者としての住民の立場のギャップは、克服の難しい問題であります。米軍再編問題では、国からの情報を市民の皆さんに全

てお知らせし、ご意見をお聴きしながら、6項目の要請という形で議会とともに判断できましたことは、一つの方向であったと思っております。

職員の意識改革について

分権型社会における基礎的自治体の在り方、市民自治を考えるうえで、重要な要因となりますのが、行政のプロとしての市職員であります。

自立した自治体を目指し、一層の行政改革を進めなければなりません。コストを上げることなく市民満足度を高めることにあり、単なる減量型の改革ではありません。新しい公共への対応、多様な主体との協働での公共サービスの提供など、新しい仕組みを構築することであり、市民と行政との関係を変えていく、そして職員の意識を変えていくことが行政改革の本質であると考えます。

福生市も、将来的に合併ということも考えなければなりません。国からの情報も、自

立していかねばなりません。小さくとも質の高い自治体を目指し、事業官庁から知識集約型の政策官庁へと変わらなければなりません。

市民の皆さんへ

これからの自治体は、地域住民の生活ニーズに思考の出発点を置くことになり

る市民サービスの領域も現われている状況のなかで、市民の皆さんの意識も変えていただきたいと思っております。

誰かが何とかしてくれるという他者依存ではなく、自助・共助ということをも一度考えていただき、自分たちでできることは自分たちです。という意識を持っていただくことにより、市民自治、市民が主役の福生市が創られていくと考えております。

自分が住むまちをもう一度見直して、どのような将来像が描けるかを考え、それぞれ役割を担っていた

最近、小学生の頃の思い出の本に再会し、読み返す機会がありました。内村鑑三の「後世への最大遺物」という本ですが、後世へ何を遺せるかと問うなかで、それぞれできる立場により、お金であるとか、事業や思想などを挙げたうえで、誰にでも遺すことができ、利益ばかりあって害の無い遺物、それは、勇ましい高尚なる生涯であると言っております。勇ましい高尚なる生涯とは、「失望の世の中にあらずして、希望の世の中である」ことを信ずることである。「悲嘆にあらずし

結び

て、歓喜の世の中であるという考えを、我々の生涯のなかで実行することであると語っております。現在、福生市には、さまざまな問題があります。しかし、それを失望の世の中と思わず、希望の世の中であることを信じて、一歩ずつ進んでいく先に、必ずや「輝くまち福生」が現われてまいります。

市民一人ひとりが、希望を持ち、瞳を輝かせて、このまちで暮らしていくことこそ、将来の福生市民への最大遺物であると考えております。

また、継続して取り組まなければならない課題もありますが、これまでの流れに新しい考えを加えて取り組んでいただける方に、市長の禱をお渡ししたいと願っております。最後にになりましたが、2期8年の長きにわたりましたが、市民各位の深いご理解とご協力、そして議員各位並びに諸先輩に、温かく、そして力強いご支援、ご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。心よりお礼を申し上げます。

任期僅かではございますが、最後まで、皆さんとともに、まちづくりに取り組んでまいり覚悟でございます。最後まで、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。所信とさせていただきます。